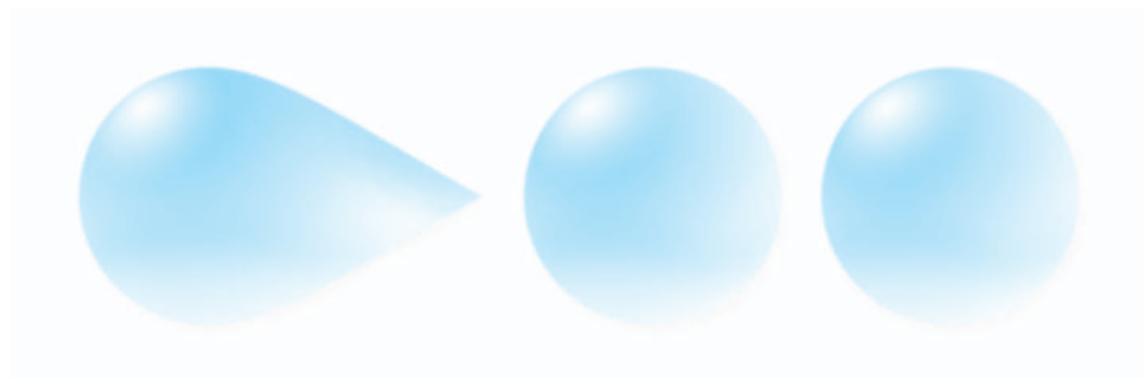




株式についてのご案内	
決算期	3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金支払日	毎年3月31日
株主確定日	毎年3月31日
中間配当金を支払う場合の株主確定日	毎年9月30日
1単元の株式数	1,000株
株券に関する手数料	株式名義書換 無料 新券交付 株券1枚につき210円 (消費税額等を含む)
公告掲載方法	電子公告 公告掲載アドレス <a href="http://www.organo.co.jp/">http://www.organo.co.jp/</a> ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。
株式事務取扱場所 名義書換代理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (証券代行事務センター)
同取次所	電話 (03) 3323-7111 (代表) 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

株式に関するお手続き用紙のご請求方法
以下のお手続き書類は、中央三井信託銀行のホームページにアクセスしていただければ、お手持ちのプリンターで出力してご利用いただくことができます。 あわせて、ご留意事項(必要書類)・記入例をご覧ください。
●株式名義書換請求書 ●住所変更 ●お届出印の変更 ●単元未満株式(端株)買取請求書
ホームページアドレス <a href="http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html">http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html</a>

オルガノホームページ
ホームページでは、IR情報などをご提供しております。

Ecologically Clean

## オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8

TEL.03-5635-5100

ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>

# Corporate Philosophy

## Ecologically Clean

オルガノはEcologically Cleanを企業コンセプトとして、「人と人とのふれあい」と「人と環境との調和」を大切にしています。

水は、地球という惑星に与えられた、命あるものすべてに共通の財産です。オルガノは創業より水とともにあり、水を理解する心と、水を活かす技術を大切に育み続けています。生命の源、「水」がもたらす恩恵を、社会の基盤づくりから先端産業、そして毎日の暮らしの中へ。私たちは、水処理の総合エンジニアリング企業として、美しい地球環境との共存と共生に貢献していきます。

### 企業理念

オルガノはかけがえのない地球の未来を見つめ“心”と“技”で水の価値を創造する。

### 経営理念

地球を大切に  
お客様を大切に  
人を大切に  
技術を大切に  
株主を大切に

## 株主の皆様へ



代表取締役社長兼CEO兼COO

橋本喜代志

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、平成17年3月31日をもって当社の第60期営業年度を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度における日本経済は、企業部門を中心に堅調に推移しましたが、昨年夏ごろから景気を牽引した輸出の頭打ちや、IT関連の在庫調整などから踊り場に入りました。

当社グループの業績に影響の大きい設備投資は、エレクトロニクス関連の投資拡大を背景に製造業で増加傾向となりました。しかし、設備投資を支える企業収益は、販売競争の激化による製品価格の低下や素材・鋼材価格の上昇等により、年度後半から停滞局面に入り、設備投資も同様に減速傾向となりました。また公共投資及び電力設備投資は依然として好転せず、減少傾向が続きました。

このような状況の中で当社グループは、新グループ中期経営計画の初年度として、グループ連結経営の強化と高収益企業グループへの進化を目標に、国内外の製造拠点・体制の整備、国内地域拠点の統合並びに新研究開発拠点の整備などを実施し、コストダウン、ソリューション及び機能商品事業の拡大、新技術・新商品・新サービスの開発等に取組んでまいりました。

これらの結果、当連結会計年度の受注高は、製造業の堅調な設備投資の影響を受け、752億7千9百万円（前連結会計年度比3.9%増）となりました。

売上高につきましては、前連結会計年度から続いたエレクトロニクス関連の設備投資拡大の影響を受け、776億1千3百万円

（前連結会計年度比12.1%増）となりました。

しかしながら利益面につきましては、エレクトロニクス関連の海外大型工事における採算性悪化、鋼材に代表される資材の高騰等により、経常利益は30億5千万円（前連結会計年度比19.5%減）、当期純利益は18億3百万円（同9.4%減）となりました。

当期の利益配当金につきましては、配当に対する基本方針及び当期の業績その他諸般の状況等を勘案いたしまして、期末配当金は中間配当金と同じく1株当たり4円とさせていただきます。これにより中間配当金を含めた当期の年間配当金は1株当たり8円となりました。

2005年度の日本経済は、現在進められているIT在庫調整の終息、企業部門の収益体質強化によるキャッシュ・フローの増加、秋以降の米国景気の再加速等が予想され、現在の踊り場を脱し、緩やかな回復傾向を辿ると思われれます。しかし、米国経済の景気回復の遅れ、素材・鋼材価格の高騰による企業収益の圧迫等の懸念材料もあり、国内景気は予断を許さない状況ともいえます。

設備投資は、製造業においてはIT在庫調整後の年度後半からエレクトロニクス関連の投資回復等が期待され底堅く推移するものと思われれます。

しかし、電力会社は電力自由化範囲の拡大に伴う厳しい価格競争に直面しており、設備投資削減が継続される見込みであり、また公共投資は、特に地方自治体の財政悪化により大幅予算削減が常態化の傾向にあります。

このような厳しい事業環境のもとで当社グループは、2004年度からスタートした中期経営計画の第2年度目を迎え、より安定した収益構造と事業拡大を目指し、全グループの総力を挙げてこの目標の達成を図ってまいります。特にコンセプトとして掲げた「メーカーへの回帰」を具体化し、モノづくりに拘ることによる徹底的なコスト削減、高機能化、差別化等に取組んでまいります。

なお、昨年10月に当社従業員が贈賄事件で逮捕され、多くの皆様に多大なご迷惑、ご心配をおかけ致しましたことに対し深くお詫び申し上げます。当社はこの事態を厳粛に受け止め、コンプライアンス委員会を設置し、更なる法令遵守の啓発と徹底を図ると同時に、今後このような事態を起こさないよう再発防止に全力で取り組み、信用の回復に努めてまいります。

めまぐるしく変化する経済社会環境のなかにおいて、オルガノグループは水と環境で世界に通用する企業となり、企業価値を常に向上させ、社会に貢献する企業を目標としております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

### ●オルガノ（蘇州）水処理有限公司 工場竣工

当社は中国における電気、電子産業を中心とする顧客の開拓及び装置納入を行っていましたが、更なる拡大のステップとして2003年9月に子会社を設立し、ユニット組立、薬品製造、水質分析等の機能を持つ本格的な水処理一貫工場の建設に着手し、2004年10月に操業を開始しました。既存のオルガノ（上海）の業務は新会社に吸収し、中国における各種水処理設備の設計、販売に加え、生産、メンテナンスサービスを強化し中国ビジネスを全面的に展開致します。



### ●開発センター移転

一昨年神奈川県相模原市に研究所用地を取得し、建物改修やユーティリティ設備工事を行ってまいりましたが、2005年2月に埼玉県戸田市などにあった研究施設（一部を除く）を相模原市へ移転致しました。水の総合エンジニアリング企業として、当社の企業価値を常に向上させていくため、新開発センターでは最先端技術、当社独自技術の開発に取り組んでまいります。



### ●オルガノ・ハイテック有限会社を設立

当社は小型機器（ラボ用純水・超純水装置など）事業を機能商品事業の中核として位置付け事業強化に取り組んでいます。顧客要求を先取りした新商品開発や迅速なメンテナンスサービスの提供には、自前の製造会社が必要と判断し、オルガノ・ハイテック有限会社を山口県周南市に設立し、2004年9月に操業を開始しました。ラボ用機器を中心に独自商品の開発・製造を行い高品質、コスト競争力のある商品を市場に提供していきます。



（デスクトップタイプ純水製造装置）

### ●山下薬品工業株式会社を子会社化

中期経営計画の重点戦略として販売ネットワーク強化による機能商品（小型機器、水処理薬品など）の積極的拡大を推進します。その一環として、2005年5月に広島地区の水処理薬品の販売代理店である山下薬品工業株式会社を完全子会社化し、販売体制の強化・拡大を図ります。

### ●24時間遠隔監視センターと遠隔監視事業

当社は納入した上下水道設備などを24時間遠隔監視することでトラブルの未然防止と運転のサポートなどを行う24時間遠隔監視センターを本社内に設置し納入装置の監視を始めています。また、メダカを利用し、その挙動を先進の画像処理技術と組み合わせた水質監視システム「オルセイバー」の開発や蛇口末端で多項目にわたる水質情報を測定する「オルファード」の開発など遠隔監視事業を推進しています。



（フジサンケイビジネスアイで水質監視システムをテーマに新井静一郎賞を受賞した広告）

### ●オルガノ健康食品のご紹介

オルガノの健康食品オルエストシリーズは、ストレスの多い現代人の食生活をサポートします。若返りや老化予防といったアンチエイジングに効果のあるコエンザイムQ10に各種栄養素を配合したオルエスト・Q10、抗ストレスや快適な眠りと目覚めに効果があるパコバエキス抽出物などの栄養素を配合したオルエスト・ブラーミ、視力向上や脳内活性、血行促進などに効果のある魚由来の脂肪酸DHAやイチョウ葉エキス、アスタキサンチンを配合したオルエスト・DHAなどをご用意しております。

（お問合せ先 オルガノ株式会社 食品事業部 TEL.03-5635-5221）



（オルエスト・Q10とオルエスト・ブラーミ）

### ●土壌浄化事業納入事例

大規模マンションの建設予定が進む東京都内の化学工場跡地約15,000㎡は環境基準を大幅に超えるトリクロロエチレン等で汚染されていましたが、2004年9月に当社のグループ会社である環境テクノ株式会社が浄化致しました。汚染土壌を入れ替えることなくその場所で浄化を行う触媒酸化法と原位置化学酸化法を駆使し汚染土壌の修復を行いました。この浄化方法は従来法に比較して大幅な工期短縮と処理費用の低減が可能です。



●連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成17年3月31日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>		
流 動 資 産	54,795	48,922
固 定 資 産	30,617	30,055
有 形 固 定 資 産	22,490	21,870
無 形 固 定 資 産	581	588
投 資 そ の 他 の 資 産	7,545	7,597
<b>資 産 合 計</b>	<b>85,413</b>	<b>78,978</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本の部</b>		
流 動 負 債	41,341	34,466
固 定 負 債	11,781	13,653
<b>負 債 合 計</b>	<b>53,122</b>	<b>48,120</b>
少 数 株 主 持 分	243	299
資 本	8,225	8,225
資 本 剰 余 金	7,500	7,500
利 益 剰 余 金	15,912	14,639
株 式 等 評 価 差 額 金	653	385
為 替 換 算 調 整 勘 定 式	△ 152	△ 136
自 己 株 式	△ 91	△ 55
<b>資 本 合 計</b>	<b>32,047</b>	<b>30,558</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>85,413</b>	<b>78,978</b>

●連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)	前 期 (平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)
資 本 剰 余 金 期 首 残 高	7,500	7,500
資 本 剰 余 金 期 末 残 高	7,500	7,500
利 益 剰 余 金 期 首 残 高	14,639	13,166
利 益 剰 余 金 増 加 高	1,803	1,990
当 期 純 利 益	1,803	1,990
利 益 剰 余 金 減 少 高	530	517
配 当 金	462	462
役 員 賞 与	68	53
連結会社の増加に伴う利益剰余金減少高	—	1
利 益 剰 余 金 期 末 残 高	15,912	14,639

●連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)	前 期 (平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)
<b>経 常 損 益 の 部</b>		
売 上 高	77,613	69,211
売 上 原 価	60,238	50,713
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	14,280	14,386
<b>営 業 利 益</b>	<b>3,094</b>	<b>4,112</b>
営 業 外 収 益	220	204
営 業 外 費 用	264	527
<b>経 常 利 益</b>	<b>3,050</b>	<b>3,789</b>
<b>特 別 損 益 の 部</b>		
特 別 利 益	140	12
特 別 損 失	302	236
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>2,888</b>	<b>3,566</b>
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,328	1,608
法 人 税 等 調 整 額	△ 267	△ 61
少 数 株 主 利 益	23	28
<b>当 期 純 利 益</b>	<b>1,803</b>	<b>1,990</b>

●連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)	前 期 (平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 571	3,340
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,469	△ 2,374
財務活動によるキャッシュ・フロー	953	△ 3,871
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	△ 31
現金及び現金同等物の減少額	△ 1,072	△ 2,936
現金及び現金同等物の期首残高	6,777	9,702
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	54
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 43
現金及び現金同等物の期末残高	5,705	6,777

●単体貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成17年3月31日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>		
流 動 資 産	48,105	43,175
固 定 資 産	28,333	27,609
有形固定資産	20,742	20,059
無形固定資産	499	490
投資その他の資産	7,091	7,059
<b>資 産 合 計</b>	<b>76,438</b>	<b>70,785</b>
<b>負 債 ・ 資 本 の 部</b>		
流 動 負 債	37,992	31,504
固 定 負 債	10,238	11,954
<b>負 債 合 計</b>	<b>48,230</b>	<b>43,458</b>
資 本 金	8,225	8,225
資 本 剰 余 金	7,500	7,500
利 益 剰 余 金	11,923	11,274
株式等評価差額金	650	382
自 己 株 式	△ 91	△ 55
<b>資 本 合 計</b>	<b>28,208</b>	<b>27,327</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>76,438</b>	<b>70,785</b>

●単体損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前 期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
<b>経 常 損 益 の 部</b>		
売 上 高	65,706	57,830
売 上 原 価	53,324	43,857
販売費及び一般管理費	10,715	10,767
<b>営 業 利 益</b>	<b>1,666</b>	<b>3,205</b>
営 業 外 収 益	369	316
営 業 外 費 用	218	474
<b>経 常 利 益</b>	<b>1,816</b>	<b>3,047</b>
<b>特 別 損 益 の 部</b>		
特 別 利 益	138	1
特 別 損 失	268	371
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,686</b>	<b>2,677</b>
法人税、住民税及び事業税	814	1,171
法人税等調整額	△ 275	△ 0
<b>当 期 純 利 益</b>	<b>1,147</b>	<b>1,506</b>
前 期 繰 越 利 益	579	570
中 間 配 当 額	231	231
<b>当 期 未 処 分 利 益</b>	<b>1,495</b>	<b>1,846</b>

●利益処分

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前 期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
当 期 未 処 分 利 益	1,495	1,846
これを次のとおり処分いたします。		
利 益 配 当 金 ( 1 株 に つ き )	230 (4円)	231 (4円)
役 員 賞 与 金 ( うち 監 査 役 賞 与 金 )	29 (3)	36 (3)
別 途 積 立 金	700	1,000
次 期 繰 越 利 益	535	579

(注)平成16年12月6日に231百万円(1株につき4円)の中間配当を実施いたしました。

ご 参 考

●部門別売上高

(単位：百万円)

部 門	第56期 (平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで)	第57期 (平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで)	第58期 (平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで)	第59期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)	第60期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
大 型 装 置	49,876	42,028	32,487	32,495	40,933
中・小型装置	7,331	8,099	8,543	10,004	8,879
樹 脂 ・ 薬 品	15,140	15,525	13,908	13,698	14,080
そ の 他	2,179	1,615	1,785	1,632	1,812
合 計	74,526	67,268	56,725	57,830	65,706

●分野別売上高

(単位：億円)

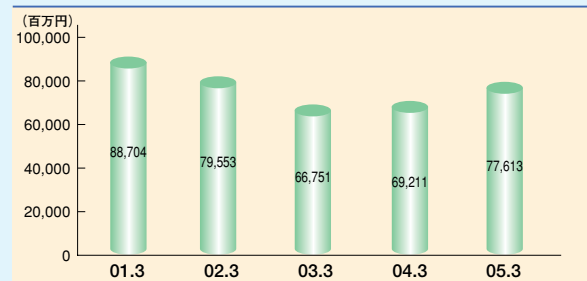
分 野	第56期 (平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで)	第57期 (平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで)	第58期 (平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで)	第59期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)	第60期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
電 力	105	107	85	81	81
電 子 産 業	281	219	143	161	274
官 需	123	106	98	98	61
一 般 民 需	147	145	148	142	148
薬 品 / 食 品	89	96	93	96	93
合 計	745	672	567	578	657

●決算の概況

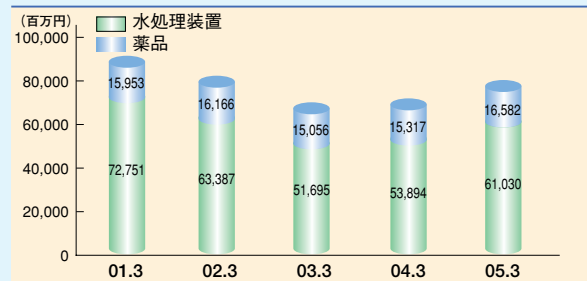
2004年度はエレクトロニクス関連の投資拡大を受け、売上高は前連結会計年度比12.1%増となりました。しかしながら利益面に関しましては、エレクトロニクス関連海外大型工事における採算性悪化や鋼材等の資

材の高騰の影響を受け、経常利益は前連結会計年度比19.5%減、当期純利益は同9.4%減となり、増収減益となりました。

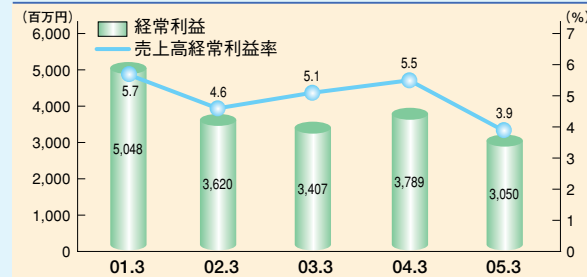
●売上高



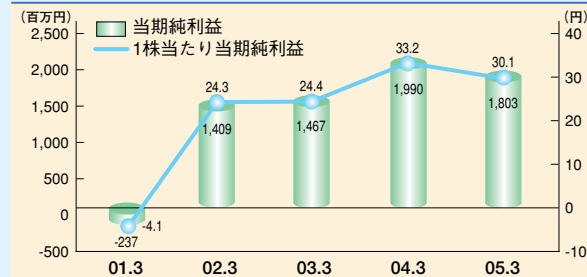
●セグメント別売上高



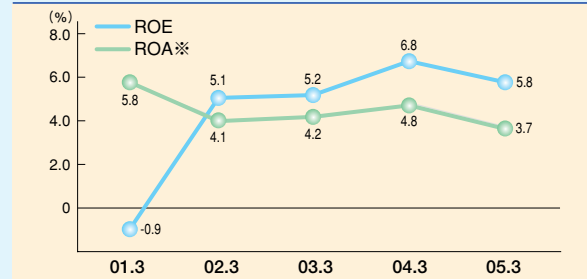
●経常利益/売上高経常利益率



●当期純利益/1株当たり当期純利益

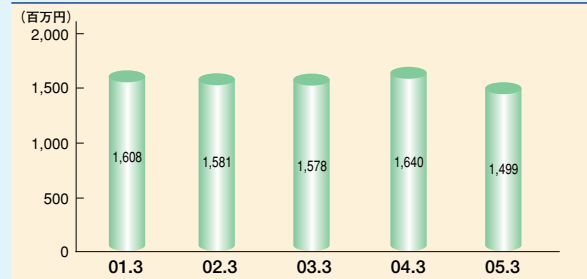


●ROE/ROA



※総資産経常利益率

●技術研究費



グループ中期経営計画 ～メーカーへの回帰～

オルガノグループは2004年度から3ヶ年の「中期経営計画」を策定し、その実現に挑戦していきます。

●コンセプト

**メーカーへの回帰**  
(メーカー機能を有するエンジニアリング会社)  
オルガノグループは、お客様の声を起点とし、多様なニーズに対応する高品質な商品・サービスを提供していきます。そのために、自ら徹底して考え、議論し、自らの“モノづくり”にこだわる“技術のオルガノ”を目指していきます。

●基本方針

① **グループ経営**  
グループ各社の強みと相互の協力によりグループシナジーを発揮し、経営成果を極大化します。グループで目標を共有し、その達成に向けてグループ経営資源の効率的活用・最適配置を図ります。

② **安定収益**  
景気に左右されないより安定した収益基盤の確立を目指し、ソリューション及び機能商品事業への資源投入を図ります。

③ **売上拡大**  
グループの成長・発展を目指し、既存事業の維持・強化及びサービス事業やアジア・中国市場等の新事業・新市場への展開を図ります。

④ **モノづくり**  
グループ全体で“モノづくり”にこだわり、自ら商品を考え、自ら商品を生産することで競合他社と差別化された品質、コストで優位性のある「独自の技術・商品」を創出していきます。

⑤ **PDCA**  
全社MI活動(6シグマ)によりPDCAサイクルを確立・定着させ、迅速かつ確実な課題解決を図るとともに、中期経営計画の必達及び企業風土の変革を図ります。

●重点戦略

① **機能商品事業の拡大**  
販売ネットワークの強化、付加価値の高い商品・技術の開発・提供を行うことによりシェア拡大及び新たな市場拡大を目指します。

② **ソリューション事業の拡大**  
お客様のあらゆるニーズを継続的に解決できるサービスを提供することにより、お客様の満足度を高めていきます。

③ **中国事業の拡大**  
中国をグローバル展開の最重要マーケットと位置づけ、中国ビジネスの拡大を図っていきます。2004年10月に操業を開始した蘇州工場で世界に通用する品質・価格競争力を有する商品を生産し、中国市場はもとよりグローバルな事業拡大を目指します。

④ **独自技術/商品の開発**  
お客様の声を十分に反映したタイムリーな技術/商品開発により、新しい価値創造を行い、独自の市場を開拓していきます。

⑤ **マネジメント革新**  
経営資源の効率的な配分とグループ組織の最適化を図り、マネジメントの革新及び企業風土の改革を目指します。

●2004年度「中期経営計画」実績

中期経営計画の初年度に当たる2004年度は、重点戦略の実現を目指し、国内外の製造・開発拠点などのインフラ整備、体制構築に取り組みました。

① **オルガノ・ハイテック有限会社設立**  
「機能商品事業の拡大」「独自技術/商品の開発」の拠点としてオルガノ・ハイテック有限会社を設立し、機能商品事業推進体制を強化致しました。

② **山下薬品工業株式会社の子会社化**  
「機能商品事業の拡大」の一環として水処理薬品の販売代理店である同社を完全子会社化し、水処理薬品販売体制を強化致しました。

③ **中国蘇州工場の操業開始**  
「中国事業の拡大」の拠点として建設を進めてきた蘇州工場を操業、ユニット組立から水質分析など一貫した水処理設備納入工場機能を確立致しました。

④ **新開発センターの操業開始**  
「独自技術/商品の開発」を推進していくため、手狭に成りつつあった旧開発センター(戸田)に加え、相模原市に新開発センターを設置、操業を開始致しました。

⑤ **地域拠点の統合**  
「ソリューション事業の拡大」を「マネジメント革新」による合理化により推進していくため、各地域拠点を統合し、地域営業の効率化と事業部間シナジー体制を構築致しました。



● 水処理関連薬品

オルガノの水処理薬品は安全性と信頼性を重視し、ビル空調用、ボイラ用、洗浄用、排水処理用など多用途にわたっています。  
 <技術製品>  
 ボイラ水処理薬品、冷却水処理薬品、洗浄薬品、排水処理薬品、飲料水処理薬品、薬品注入関連装置、サニテーションケミカルズ、HACCP関連装置

● 産業プロセス関連設備

有価物の分離・精製、なかでも新JOクロマト分離装置は画期的多成分分離システムとして好評をいただいています。  
 <技術製品>  
 糖液脱色精製装置、各種溶液精製・濃縮装置、クロマト分離装置

● サービス事業

水処理エンジニアリングを支援する高度分析からモニタリング、コンサルティング、プラントの監視システムまで広くサービス事業を展開しています。  
 <技術製品>  
 高度分析と評価、有害物質・生活環境項目水質分析、モニタリング、レジオネラ対策、環境ホルモン対策、納入装置メンテナンス、プラント監視システム

● 上下水道関連設備

ライフラインと呼ばれる上下水道施設のうち、上水道施設では、膜などを利用した最新の技術でおいしくて安全な水をつくります。また、下水道施設では、使った水を浄化し、安全で快適な環境を創ります。  
 <技術製品>  
 凝集沈殿装置、急速ろ過装置、活性炭ろ過装置、膜型浄水装置、高度処理装置、下水処理装置、脱臭装置、ポンプ設備、污泥処理装置、下水再利用装置

● 食品加工材

食生活も多様化が進み、便利で豊かな新しい食生活が実感できるようになりました。オルガノの食品加工材は食生活の向上に寄与しています。  
 <技術製品>  
 食添製剤、糊料、食品素材

● 標準型水処理機器関連設備

電子産業からレジャー施設にいたるまでさまざまなニーズに応じて標準化された最新機器で最適な水づくりを提案します。  
 <技術製品>  
 純水装置シリーズ、軟水装置シリーズ、ろ過装置シリーズ、ユニット形超純水装置、サブシステム、小型超臨界水酸化装置、各種フィルタ、ホモジナイザ、蒸留器、各種水質計測器

● 産業用水処理設備

水は産業界を支える重要な役割を持っています。特に超純水技術は半導体や液晶などエレクトロニクス産業の分野や火力・原子力発電所などでは欠かすことのできない重要な技術です。食品分野、医療・製薬分野をはじめ、すべての産業界でのニーズに合った水処理システムを提供しています。  
 <技術製品>  
 軟水装置、純水装置、超純水装置、復水ろ過脱塩装置、機能水製造装置、無菌純水装置、蒸留水製造装置、海水淡水化装置、超高速ろ過装置

● 環境関連設備

<産業排水処理関連設備>  
 あらゆる産業から発生する排水を適切に処理し環境に還します。また、一切排水を出さないクローズドシステムは環境への負荷がほとんどありません。  
 <技術製品>  
 工場排水処理装置、発電所排水処理装置、産業排水回収再利用装置、中水道設備、生活排水処理装置、脱窒脱りん高度処理装置、半導体工場クローズドシステム、清掃工場排水処理装置、浸出汚水処理装置、ゴルフ場農薬除去装置

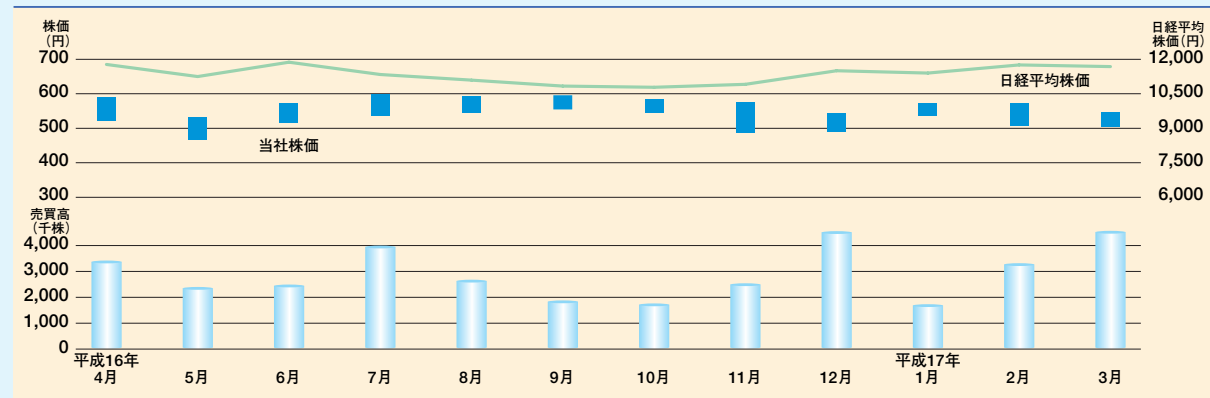
<地下水・土壌浄化関連設備>  
 近年問題となっている有機塩素化合物などによる地下水汚染や土壌汚染問題に調査から設計、浄化までトータルに取り組んでいます。  
 <技術製品>  
 地下水浄化装置、排ガス処理装置、土壌汚染調査システム、土壌ガス浄化装置、バイオレメディエーション

<廃棄物処理関連設備>  
 廃棄物の処理は地球環境の問題です。PCBをはじめとした難分解性有害化学物質の完全分解が可能な超臨界水酸化技術は時代が求めている処理技術です。  
 <技術製品>  
 超臨界水酸化装置

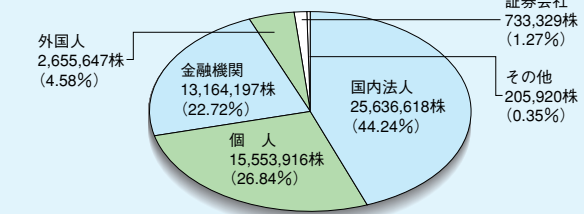
- 会社が発行する株式の総数 126,960,000株
- 発行済株式総数 57,949,627株
- 株主数 7,670名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,024	3.6
株式会社みずほ銀行	1,773	3.1
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,486	2.6
野村信託銀行株式会社(投信口)	800	1.4
みずほ信託銀行株式会社	775	1.4
日本生命保険相互会社	564	1.0
明治安田生命保険相互会社	549	1.0
第一生命保険相互会社特別口	497	0.9
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	450	0.8

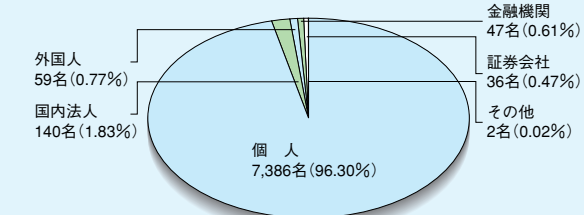
● 株価及び売買高の推移



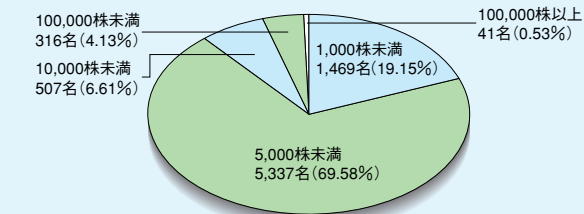
● 所有者別株式分布状況



● 所有者別株主分布状況



● 所有数別株主分布状況



- 創業 昭和21年5月1日
- 資本金 8,225,499,312円
- 従業員数 734名
- 主要な事業所 本社、本郷別館、札幌支店、仙台支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、台湾支店、つくば工場、いわき工場、幸手工場、開発センター

● 主要な事業内容

当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売及びメンテナンス並びに各種薬品類の製造、販売を主な事業としております。

● 役員

*取締役会長兼CEO	橋本勉
*取締役社長兼COO	傳田正彦
*取締役	橋本喜代志
取締役	田代圓勝
取締役	中川博勝
取締役	平原征二郎
取締役	鶴田大空
取締役	鬼頭和夫
常勤監査役	柴田欣男
常勤監査役	宮島正行
監査役	堀古孝一
監査役	大仲秀生

(注) \*印は代表取締役であります。

● グループ会社

(国内)		(海外現地法人)	
北海道オルガノ商事株式会社	北海道	奥加諾(上海)水処理有限公司	中国
東北オルガノ商事株式会社	宮城県	奥加諾(蘇州)水処理有限公司	中国
東京オルガノ商事株式会社	東京都	Organo (Philippines) Incorporated	フィリピン
中部オルガノ商事株式会社	愛知県	Organo (Asia) Sdn. Bhd.	マレーシア
関西オルガノ商事株式会社	大阪府	PT. Organo Indonesia	インドネシア
九州オルガノ商事株式会社	福岡県	Organo (Singapore) Pte. Ltd.	シンガポール
オルガノプラントサービス株式会社	東京都	Organo (Thailand) Co., Ltd.	タイ
株式会社ジェイ・オー・クリエイト	東京都	Ortec Chemical Co., Ltd.	ベトナム
オルガノダニスコフードテクノ株式会社	東京都	Organo (UK) Limited	イギリス
環境テクノ株式会社	東京都		
オルガノ・ハイテック有限会社	山口県		